

### 今号の記事

年金改善を！集会…2面／組織強化全国で奮闘…3面／北から南から…4・5面／みんなのひろば…6面／年金者文芸・パズル…7面／わが支部／わが町／旅・たび（館林支部）…8面

# 年金者 しんぶん

## 第438号

2026年6月15日(月)

(通巻第637号)

### 全日本年金者組合中央本部

〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル  
発行人 岩崎 勇 月刊1部100円(組合費を含む)  
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

2026.06.15 組合員数94,258人

連絡先 ☎03(5978)2751

FAX03(5978)2777

honbu@nenkinsha-u.org

ホームページ／年金者組合で検索



## 「命は宝」

須田さんは現役時代、高等学校書道科の教員でした。昨年、戦後80年にちなんで「命こそ宝。戦争はあってはならない」の思いを書きました。

「書道は何段ですか？」の質問に、「先生に段位はありません」と笑われたのが印象的でした。



群馬県／桐生・みどり支部書記長  
**須田 章七郎**さん

### 組合員を6倍に増やす

## 原点は、みんなで楽しむ

「まり、みんなが楽しみ、話し合う。その集まりを積極的につくる先頭に立ちました。結果みんなが一致団結。それが私の活動の原点となりました」

須田章七郎さんは、1949年生まれの76歳。

現役時代は、高等学校の教員で、群馬県高等学校教職員組合の委員長も務めました。現在は、笠懸書道協会の会長であり、群馬県の年金者組合桐生・みどり支部の書記長を務めています。

「教員の時、教職員組合員とどういって差別も受けました。学校はとい

えば、体罰が横行し荒れていました。けれど教職員組合の組合員は少数、

あせりましたね。しかし、よく考えてみると管理職は敵ではない。教育を良

くするためなら団結できなはずはない。そこで管理職も含めみんなが集

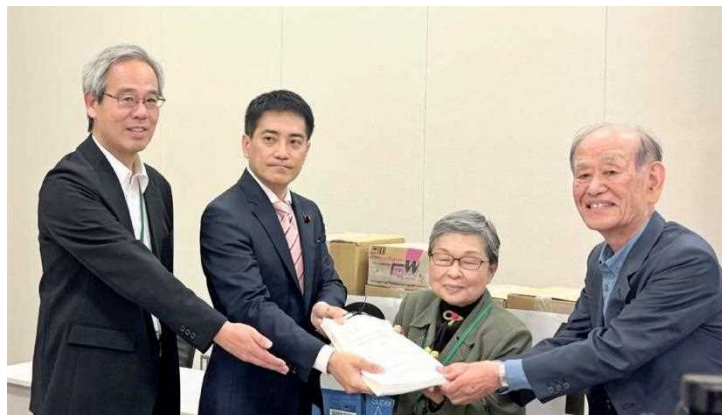
18年秋の月間では、「2桁の仲間づくり」に挑戦。町内別に組合員名簿をつくり、10数人に手紙を送って加入を訴えました。役員だけでなく、組合員の方にも協力を呼びかけました。「あの人が入っていない、この人が入っていない」と仲間づ

「嬉しいのは、最近では、組合員の方が『楽しいから』と友達と一緒に誘ってくれるようになったことかな」と須田さんは笑います。

「何よりも、一人ぼっちを作らない、楽しくなければ年金者組合でない、を大事にしていきたい。桐生・みどり支部は、今年春の月間も支部拡大目標5人を達成しています。」

【聞き手／宇内敏哲】

## 10万3,354人の年金改善署名提出



(関連2面)

くりの輪が広がりました。行事へお誘いします。組合員一人ひとりを大事にする。毎月の支部ユニスの一面には、組合員さんに登場してもらっています。行事に参加できない人への「仲間づくり援助金制度」もつくりました。

今日の自信は、支部の「三大行事」。①春のお花見会、②バーベキュー囲む会、③忘年会&芸能発表会、などで毎回50人をこえる方が参加してくれます。

「何よりも、一人ぼっちを作らない、楽しくなければ年金者組合でない、を大事にしていきたい。」

「いのちをあきらめない社会に」なるよう力を合わせていきましょ

「命を あきらめない社会に」とある新聞記事が目にとまりました。最高限度額の上限額が引き上げられようとしている高額医療費制度について、若者の有志団体が声をあげました。「誰もが病気になる可能性がある。当事者だけの問題じゃない」と新宿デモを企画。200人以上が集まりました。私にとっても他人ごとではありません。6年前乳がんになり、駒込病院で手術しました。今でも忘れられないのは、手術前、一列にイスに座り、10人ほどの女性が同日、同時に一斉に手術しました。異様な風景だったのですが、今でも時々思い出すシーンです。がんの再発も気になります。健康保険法の改定案が今後どのようなふうになるのか、命を脅かす制度にならないように願うばかりです。

(R)